


# Specialプロジェクト 2020 構想

参考資料

## 趣旨等

- 2020年からの新たな特別支援教育(学習指導要領改訂)を契機に、**全国の特別支援学校で、スポーツのみならず文化・教育活動も含めた、全国的な祭典を開催**

・「ほんもの」のスポーツ・芸術に触れ感動を共有する機会 ・障害の有無等を超えて誰もが心を触れ合う機会  
・地域住民の主体的な参画

- 特別支援教育(special needs education)を**変革**  **既存の特別支援学校を拓く!**
- **みんなをつなげる次世代の「共生学校」を創造**

・地域の誰にでも開かれた**次世代の「共生学校」に変革**  
・東京大会のレガシーとして、障害の有無や年齢・性別を超えた、**地域の共生社会の拠点化**  
・自助、共助、公助を一体として推進

## 具体的な取組

特別支援学校を拠点とした総合型地域スポーツクラブの創設等、「地域社会のハブ(交流拠点)」化

企業が特定の特別支援学校と連携し応援

特別支援学校の児童生徒からの公募によりロゴマークを選定

幅広い地域住民が参加する地域共同運動会・文化祭等の開催

オリンピック・パラリンピアン等アスリートによるスポーツ体験会等の開催

プロスポーツの試合やプロ芸術家のコンサートの開催等、障害児が「ほんもの」のスポーツ・文化に触れる機会の創設

特別支援学校と近隣の小中高等学校の児童生徒の交流及び共同学習の促進／その成果の発表大会

障害者と健常者が共同で制作を行う文化芸術活動の促進／制作した作品の展示・販売

卒業後も障害者が特別支援学校や地域社会から様々な支援を受けられる機会を充実

(参考)

# 文部科学省ボッチャイベント

～ Special プロジェクト 2020 プレイメント ～

## 趣旨等

平成28年8月2日には、特別支援学校のチームが競い合う初めてのスポーツの全国大会である「ボッチャ甲子園」が開催されたところであり、2020年に向けてこのような取組をさらに発展させることが必要である。このため、「Special プロジェクト 2020」の一環として、文部科学省においてボッチャの普及啓発を推進するためのイベントを開催した(松野文科大臣、丸川オリパラ担当大臣、パラリンピアンや特別支援学校選手が参加したチーム形式による試合等のイベントを実施)。

## 日時

平成28年9月21日(水)  
13:00 ～ 15:30

## 出席者

文部科学省 松野大臣、義家副大臣、樋口政務官他  
内閣官房 丸川オリパラ担当大臣、萩生田内閣官房副長官  
馳前文部科学大臣  
パラリンピアン 廣瀬選手、杉村選手  
日本パラリンピアンズ協会 大日方副会長、根木副会長  
全国特別支援学校長会 田村副会長、市川事務局次長  
特別支援学校選手(12校、計32名)

## 場所

霞が関コモンゲート中央広場



イベント風景

# 共に生きるアーツ —障がいのある子供たちと芸術家によるコンサートと展示会—

2017年3月28日（火） 於：文部科学省3階講堂

文部科学省特別支援総合プロジェクトの一環として、障害の有無に関わらずあらゆる人々が相互に理解し、共に芸術を楽しむことで共生社会の実現につながるよう、プロの芸術家と障害のある子供たちが共演するコンサートと展示会を実施。

## ●ロビーにおける美術作品の展示、ライブペインティング

演奏会の前後にアート空間を楽しめるよう、ロビーにおいて、特別支援学校の子供たちや障害のあるプロの芸術家による作品を展示（25点）。また、横溝さやか氏によるライブペインティングを実施し、来場者と障害のある芸術家の交流を行った。



## ●書道パフォーマンス、障害のある芸術家との座談会

プログラムの前半では、障害のある書道家、金澤翔子氏による書道パフォーマンスを実施。また、金澤翔子氏・泰子氏（翔子氏の母）、川島成道氏（バイオリニスト）を囲んだ座談会では、障害者による芸術活動の意義等について当事者の立場から意見を交わした。



## ●障害のある子供たちと芸術家によるコンサート

プログラムの後半では、障害のある子供たちと芸術家による参加・体験型コンサートを実施。自身も聴力を失っていたベートーヴェンの曲を会場一同で合唱したり、障害のある子供たちがオーケストラの中に入って聴いたり等、会場が一体となって楽しんだ。



特別支援総合プロジェクト：平成28年12月「文部科学省が所管する分野における障害者施策の意識改革と抜本的な拡充」を踏まえ、障害のある方々が生涯を通じて教育や文化、スポーツなどの様々な機会に親しむことができるよう総合的に支援する一連の取組。